

令和7年5月22日

5月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では、5月に入り原木入荷は各地域ともに順調で、国有林材の入荷も始まる。今後、間伐主体の作業となり、間伐材、小径材の入荷が多くなる。スギ材は供給量が増え安定し、製材業者の在庫不足も解消されたためか値下がり傾向である。3.0m柱材で14,000円台前半ば、4.0m中目材は13,000円台後半で推移。ヒノキ材は全般的に保合が続いており、3.0m柱材で24,000円台前半、4.0m中目材は22,000円台後半で推移。

群馬県では原木の出材が順調で集荷は容易である。原木価格の下落傾向が続いている。原木在庫は、スギ、ヒノキ共に100%だが、ヒノキ4m90角105角用が少ない。製材工場の原木消費は年度末が過ぎて一段落し、通常のペースである。製品在庫は間柱、仮筋等、側製品は少ない。角類は均衡。ヒノキ4m90角105角KDは、原木不足のため少ない状況となっている。

2. 米材

北米沿岸部の天候は安定しており、おおむね例年通りの伐採が維持されている。3月にトランプ関税の適用が延期されたことで警戒感が薄まり、不需要期でもあり引き合いは鈍化している。産地の合板向け米マツ原木は日本側の積極的な購入は見られず、価格は横ばい推移だが、現行価格を維持する姿勢を崩していない。米マツIS級並の対日輸出価格(推定)は前月比横ばいの\$970/千SCRで決着した模様。ランダムレンジス紙発表の15種平均価格(5/9)は\$474/Mとなり、4月末初めに比べ6.5%の下落。

3月原木入荷は177千 m^3 (前月比92%増)と大幅な増加、1~3月累計で383千 m^3 (前年同期比4%減)と米国産材の減少が目立つ。出荷は150千 m^3 (前月比10%増)で、1~3月累計は407千 m^3 で前年同期比は横ばい。在庫は152千 m^3 、在庫率は1.18ヵ月と増加。東京木材埠頭の4月入荷は9.9千 m^3 (前月比8.0%減)、出荷は10.6千 m^3 (同9.3%増)、在庫は22.8千 m^3 (同3.1%減)。大手米マツ製材メーカーは生産コストの上昇等により4月より米マツ製品全般の3,000円/ m^3 の値上げを実施。競合する欧州RW集成材の強基調から値上げしやすい環境となった。国内挽きを中心とする米マツ製品の値上がりにより輸入材全般に強気感が出ている。

3. 欧州材

第2・四半期交渉が終了し、産地サイドは夏休みを睨んだ生産調整局面となっており、対日供給量が戻る傾向は見られない。ユーロ価格の上げ基調は続き、来月から始まる次交渉もユーロ価格は上げとなる可能性が大きい。国内の間柱類は、現在、プレカット工場の稼働が好調で足元の流通在庫が少ないこともあり、価格はかなり強含み。集成柱等は、間柱類ほどではないが強含みとなり、各集成メーカーも値上げを発表。3月の東京港入荷は7千 m^3 と大きく減少。出荷も14千 m^3 と引き続き堅調となり、在庫は31千 m^3 とかなり減少。4月・5月ともに入荷は増えず、在庫はさらに減る予想。一方、6月以降1~3月積み契約残の入荷とプレカット工場の稼働による反動減があると一旦市況が停滞する可能性もある。

4. 北洋材

産地では4月の気候は平年並みで、道路が緩んでおり原木は中間土場から搬出されるもののみ。日本向け生産増加はルーブル高のため頭打ち。中国の引合いは強くなく、ウズベキスタン等の国内需要は建築シーズンに入り更に強含み、ルーブル高もあいまって輸出価格と競合し始めた。アカマツ完成品価格は\$590~\$580/ m^3 に切り上がった。ルーブル高による不採算解消のため現地価格に値上げの動きが強まっている。

3月の製品入荷（東京+川崎）は18.4千 m^3 と滞留していたコンテナが引き続き入荷。そのうち2千 m^3 ほどは西ロシアのWW間柱・根太と思われる。出荷は11.3千 m^3 で実需がやや上向くも、迫力は窺えない。在庫は30.3千 m^3 でしばらく漸増の予想であるが、荷余り感は出ていない。

5. 合板

合板メーカー各社は、4月も原木入荷が減少し生産量が上がらない状況が続いている。原木価格も高騰している。3月の国内合板生産量は22.1万 m^3 、このうち針葉樹構造用合板は19.8万 m^3 、出荷量は19.0万 m^3 、在庫量は15.0万 m^3 で前月より8,100 m^3 増加。4月も受注は好調だが生産が間に合わない状況で、まだ納期が1ヵ月程度要するメーカーもある。販売価格も、国産針葉樹合板が4月も値上げが通り、各メーカーは継続的に値上げ姿勢を崩しておらず、今後も値上げが進むと予想される。3月の合板輸入量は16.5万 m^3 （前年比100.6%）と昨年より1,130 m^3 増加した。マレーシア、インドネシアでは合わせて3ヵ月ぶりに10.1万 m^3 となった。関東の主要港は全体的に在庫が減少傾向である。マレーシアでは4月も原木不足で工場の臨時停止を余儀なくされている。インドネシアでは、日本からの受注が減少し生産量も減少傾向にあ

る。

6. 構造用集成材（国内産）

4月の弊社ラミナ入荷量は、前月に比べ約3%減少。在庫は多少多いが在庫過多という状況ではない。第1・四半期契約に関しては€280~€290/m³程度。為替は不安定な状況が続く、アメリカのトランプ政権による関税政策による混乱が続いている。あらゆる製造コストが増加しているため、材料単価は値上がり傾向が継続すると見込まれる。3月の構造用集成材の輸入量は小断面13,547 m³（前年同月比31.9%減）、中断面9,002 m³（同56.4%減）となっている。

7. 木材チップ（東海）

原木は製紙・バイオマス発電用とも入荷は例年並みで順調に推移している。人手不足で運搬に時間がさけない状況。燃料材は、地域によって震災廃棄物の流通量に濃淡があるが、北陸3県及び近県に大量の木くずが搬出されている。消費状況も製紙用では、洋紙・板紙とも製紙原料は減少傾向が継続。家庭紙関係は仕上げ人員不足により、生産増強ができない。燃料用は、長期の定期修理開始により、消費量減少。余剰感が強く、各社受入れ抑制している。原料用・燃料用ともに在庫超過で推移。特に燃料用は震災廃棄物の大量入荷が続いており、在庫過多の状況にある。

8. 市売問屋

5月の国産構造材KD材の動きは良くないが、納材で使用するスギ、ヒノキの9.0cm角×4m、3mは動いている。国産造作材もまとまっては出ないが、スギの役物の方が売れている。5月の連休明けに期待したが、見積もりも細かく件数も少ない。スギ、ヒノキ製品ともに値上げ傾向だが客は付いてこない。

9. 小売

国産材製品は、原木供給量の減少により、価格も強含んでおり供給量に不安を抱えている。外材製品は、全般的に入荷量も少なく、商社も市況の悪さから契約を絞っている。集合住宅や店舗物件用の造作材はスギ・ヒノキとも堅調で動きが良くなっている。外材製品のほか、合板や建材なども値上げ要請は続いており、実需に力強さがないうちで今後、値上げが通るか不透明である。プレカット工場などは、新年度の非住宅関連の見積もりも出てきたことで、春先の不需要期からは抜け出した様子が窺える。4月から住宅向けの荷動きが若干改善方向にあるため、5月の連休明けに期待感はある。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和7年5月22日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
欧州材	製材品	↗	→	↗
北洋材	製材品	↗	→	↗

注) 北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	→	→	↘

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m) 2等	→
			スギ中丸太(3.65m) 2等	↘
			ヒノキ柱材(3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太(4m) 2等	↘
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 10.5×10.5×4m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オトラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
欧州材	製材品	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
北洋材	製材品	北陸・オトラ	アカマツ原板(KD) 40×165 1~3等	→
京浜・オトラ		アカマツ(KD) 30×40上級	→	
アカマツ(KD) 24×28 棧木		→		
構造用 集成材	国内産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 集成柱 JAS 5プライ	→
			レッドウッド集成梁 JAS 105×150~360×3.985	→
	欧州産		スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
			ホワイトウッド集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗

注) 令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加